

平成25年度第2回千葉市史編さん会議議事録

- 1 日 時：平成26年3月27日（木） 午後1時30分～3時10分
- 2 場 所：郷土博物館 講座室
- 3 出席者：（委員）吉田会長、本郷副会長、今井委員、緒志委員、白井委員
（千葉市史編集委員会代表）池田委員長
（事務局）
原生涯学習部長、横田文化財保護室長、湯浅郷土博物館長、田中副館長、
芦田主査、麻生副主査、大関（囑託）、笹川（囑託）

4 議 題

- （1）平成25年度事業報告について
- （2）今後の事業予定（案）について
- （3）その他

5 議事の概要

- （1）平成25年度事業報告について
平成25年度に行われた事業について、史料調査・収集・整理事業、『史料編
近現代』関係調査、市史等の刊行事業、編さん普及事業、市史研究事業、市史協
力員（ボランティア）の活動の6つの項目に分けて説明し、承認された。
- （2）今後の事業予定（案）について
平成26年度の主な事業計画（案）、今後の刊行物について説明し、承認された。
- （3）その他
特になし。

6 会議経過

午後1時30分、委員5人中5人着席。

司会（田中副館長）より資料確認、原生涯学習部長より挨拶、委員及び職員の紹介を
行った。その後、司会より設置条例第5条第2項の規定により、この会議が成立する旨
が告げられ開会。

次に、設置条例第4条第2項の規定により、委員の互選で編さん会議会長・副会長の
選出が行われた。選出された吉田会長・本郷副会長の挨拶に続いて、設置条例第5条第
1項の規定により、会長が議長となって議事に入った。

議題1 平成25年度事業報告について

平成25年度に行われた事業について、上記6つの項目に分けて芦田主査が説明。

<質疑応答>

吉田会長：内容が多岐にわたるので、1～3（史料調査・収集・整理事業、『史料編近現代』関係調査、市史等の刊行事業）までと、4～6（普及事業、市史などの刊行事業、市史協力員の活動）の2つに区切って議論したい。まずは1～3についてご意見・ご質問などがあればお願いしたい。史料調査・収集の項で、本年度第1回の議事録にあったものよりも3つほど増えているが、これらは持ち込みに近いかたちで入ってきたものか。

事務局（芦田）：作業の優先順位の都合上、第1回の会議で示したものと変更もある。

吉田会長：ここに記載されている10件が、現在整理作業中あるいは寄贈等の手続きが未了であるとか、実際に動いているものであるという認識でよいか。高橋家の史料があげられているが、こういった史料はまだ出てくる可能性はあるのか。

事務局（芦田）：記載されているものが、現在進行中のものである。高橋家文書については、後程ご覧いただこうと思っている。状態がかなり悪いが良い史料である。

今井委員：秋元家の史料の概要に昭和30年代頃の埋立関係の資料があげられているが、一般閲覧ができないなど、寄贈にあたって先方から何か条件のようなものはあげられているのか。

事務局（芦田）：特に条件は無しということで、寄贈を承諾していただいている。

吉田会長：権利関係がからんでくるということか。

今井委員：幕張などはそれで出してもらえないところもある。昭和初期はそれでもいくつかみるが、30年代のものはなかなか無い。

吉田会長：埋立・漁業権放棄に関する史料は、それほど多く残っていないということか。

今井委員：全体的に外部に出していないのか、処分されてしまっているのかはわからないが、少なくとも生浜の場合は処分されたものが多い。史料自体が残っていても、出していただけないものもある。

吉田会長：池田委員長に伺いたいのだが、事務局からは近現代の史料編についての報告が最近あまり無く、近現代史の編集委員の方々にも申し訳ないのだが、これについて何かご意見があれば。

池田委員長：編集委員会自体も年に1回しか行われておらず、内容も毎回ほぼ同じで開店休業状態という現状である。先の編集委員会でも、いったん以前のような刊行ができなくなってしまったのを再スタートさせるためには大義名分が必要だという話になった。市制100周年はいいきっかけだと思うが、それにしても付け焼き刃ではどうにもならない。ある程度計画的に委員が参加して調査を進めるべきだという話をした。近現代の史料編については、一応構成案は出来ている。もちろん見直しは必要だが、再度軌道にのせるためには、何らかの工夫が必要だろうという話をしている。編集委員が直接史料収集には関わっていないのが現状である。

吉田会長：再スタートといっても、これまで作業を進めてきたところが一度中断された形になっていたのに、突然100周年だからと言われても、すぐには動けない

だろう。道義的にも市の対応はスタッフに対して失礼ではないか。

池田委員長：100周年の2年前などに急に言われても無理である。100周年をにらんだスケジュールを今から計画する必要がある。

吉田会長：そもそも千葉市あるいは生涯学習振興課では、市制100周年に向けての話が現在出ているのか。

事務局（湯浅）：郷土博物館としては、平成33年の100周年を良い機会としてとらえ、何らかの成果物を出せるようにしていきたい。そのためには、市史編さん会議委員の皆さんや市史編集委員の皆さんの力をお借りしたいと考えている。具体的には明言できる段階ではないが、いずれ時期がきたら、ぜひ協力をお願いしたい。80周年では、広報課などで作った冊子について、郷土博物館でも写真の提供や文章作成などを行うことで関わったが、あくまで関わりを持っただけにとどまった。100周年については、こちらの方がイニシアチブをとる形で進められればと思う。80周年のものは以前の冊子の焼き直しのような形で作成されたが、100周年では、市史の通史的なものを含めて、新たなものを市民の方へ示せればと考えている。

吉田会長：今言われた「こちらからのイニシアチブ」で具体的な提案をしていくということになった時、編さん会議や編集委員会はこういった形で関わられるのか。編集委員会が原案を出し、それを編さん会議で議論して郷土博物館名などで市当局へ提議する、といった形になるのか。

事務局（湯浅）：具体的にはそういうことをイメージしている。やはり編さん会議委員・編集委員の方々のお力を頂かなければ作成は難しい。吉田会長が仰ったような過程をふまなければならないと思う。

本郷副会長：90周年の時も同じような話をしたと思うが、100周年に向けてであるならば、もう既に何か始めていないといけない。予算を取るのを待っていては、とても間に合わないのではないか。100周年にむけて成果物を出すのであれば、それにあわせて史料調査や整理・収集の優先順位も変わってくるだろう。いろいろな事業の組み替えが必要ではないか。具体的にどこから手を付けるのか、あるいはここで何が出来るのか。編集委員会が年1回だという話があったが、むしろ編集委員会の方を年2回開催して対応するなど、2つの会議の力関係も変わってくるはずだろう。

事務局（湯浅）：90周年は式典などがあったが、刊行物で大きなものは無かった。そのため、こちらでも大きな動きは無く、委員の方々へのお話もあまり無かったのだろうと思われる。100周年に向けて、いつ頃から動けるのかということについては、予算の関係もあるので、現状では明言できない。もう少しイメージを固めてご相談しようと思う。

吉田会長：編さん会議や編集委員会とは別に、100周年に向けての検討を行うワーキンググループを数人で組織してはどうか。その中でも近現代史が重要であるということで近現代史の編集委員から半数ぐらい参加していただいてもよい。実際に動いていかないと、何も話が進まないままあつという間に100周年になってしまう。

事務局（湯浅）：ご提案の通り、ワーキンググループなどがあれば、具体的なことは進むだろうと思う。その点も含めて検討したい。

吉田会長：新聞記事のデータ入力について、第1回の会議と比べてどこが動いているのかがよくわからない。

事務局（芦田）：「郵便報知新聞」については、入力を始めている。

吉田会長：「抽出」というのは、データ入力する記事をセレクトする段階で、選んだ後に入力するということか。

事務局（芦田）：そうである。「千葉毎日新聞」については、若干進んでいる。

吉田会長：「抽出」というのは具体的にはどういった作業か。

事務局（芦田）：基本的には該当部分に付箋を貼っていくことになる。千葉の記事は結構多い。

吉田会長：かなり大変な作業だと思うが、それを無償でお願いしているということか。

本郷委員：週1日というのも結構大変だと思うが。

吉田会長：だいたい毎日1人入れ替わりで来ているということか。

事務局（芦田）：平均するとおおよそそのぐらいである。平日に2、3人などまとまって作業されることがある。

吉田会長：ボランティアの方のメリットは何があるのか。

事務局（芦田）：現状ではあまり無いが、「昔の新聞を読むのが楽しい」と仰っている。成果や努力を少しでも形にしたいという気持ちもあって、編集委員の小林先生などに『いまむかし』に新聞記事からわかった内容で書いて頂いたり、ニューズレターに記事を載せたりはしている。

白井委員：市史研究講座や『いまむかし』などで新聞記事を細々ではあるが少しずつ形になっていることがわかる。一般の人たちに向けて、市史編さん担当がどういった活動をしているのか、少しでも知らせていくために、重要であると思う。今の状況では、一般の人には市史の編さん事業のことが全然わからない。少しでも活動をしている部分については、現在出ている刊行物などを使いながら知らせていくことが大事である。

事務局（湯浅）：その件については、これまでも編さん会議の場で、市民への周知のために、市史編さん事業の内容を講座などに活かすことを意見として頂いていた。今回、編集委員の小林委員にやっていただいたのも、それを実現した結果である。

池田委員長：データについてだが、これは記事の表題だけか。あるいは記事そのものも入力しているのか。

事務局（芦田）：基本的には目録的なものである。紙面上で記事の書いてある場所、表題とキーワードを少し入れている。

池田委員長：新聞記事のデータについては、インターネット公開をすることも視野に入れてほしい。戦前の記事などは、見つけるのに結構苦労する。そうした場合の索引として非常に便利であると思う。時間はかかる作業だと思うが。

吉田会長：前回の議事録をみても、三浦委員がそうした指摘をしているが、せっかく出して頂いた成果をどう市民へ知らせていくかという問題だろう。同じ問題は史料整理についても言えるのではないか。例えば、調査や整理が済んだ史料群につ

いては、内容を紹介するような公開講座の企画はできないのか。先程の話にもあったように、市史編さん事業で何をしているのか、細々でも外へ出していくことを考えると、いろいろな工夫が可能だと思うが。重要な作業の局面において、一連で終えられた史料収集・整理作業は、今のところ中に閉じられた状態であるが、かなり労力を割いている。それが外からは見えにくいので、ある意味もったいないかと思う。担当者が直接報告することはできないのか。

事務局（芦田）：仰るとおりだと思う。目録すべての公開は難しいが、主な内容や史料群の点数などの情報を外へ発信することはできる。ホームページ、『いまむかし』やニューズレターなど可能な方法を検討していきたいと思う。

事務局（湯浅）：デジタル化して郷土博物館の所蔵史料について知っていただくことは大事だと思うが、今のところデジタルミュージアム的な大がかりなものは難しい。ご提案にあったような小規模な発表の場であれば、可能な範囲で検討したい。

白井委員：市史研究講座でとりあげても良いのではないか。さまざまな講座が開催されている中で、千葉市独自の内容で行うことを考えたとき、やはり市史編さん事業で出てきた史料の内容を用いるのがよいかと思う。こうすることで、市史編さん事業の普及という市史研究講座自体の位置付けもはっきりする。定員も200人とされているが、実際には半数ぐらいの受講ということである。今現在やっていることを文章化して公開していくことで、活性化も図れるのではないか。これであれば予算がつかなくても、市民へ公開していくことができると思う。

吉田会長：そうした路線だということで、来年度の研究講座の「新聞記事…」も評価できる。

白井委員：近現代だけに限らず、近世であっても現状継続的に進めていることであれば、取り上げてもいいと思う。

吉田会長：少し具体的なイメージが、いくつかでてきたと思う。いったん区切って、4～6の内容についてご意見・ご質問などがあればお願いしたい。前回の議事録を見ると、私の発言でオーラルの研究会を立ち上げて最初に野村委員にお話を聞きたいといったようなことが書かれているが、これについてはまだ未着手である。「江戸と千葉」研究会は、自発的な研究会で、千葉県史に関わった人や千葉大学関係者などが毎回十数人ぐらい参加して細々と続いている。そうした研究会をできればあと1つ、2つぐらいできたら、と考えている。その一つの案として聞き取りを考えている。発表するかどうかは別として、少なくともテープ起こしをしていったらどうかと以前から考えていたが、なかなか進んでない。今井委員は地元でそうした取り組みを行っているのか。

今井委員：ご高齢の方にお会いしてはいるが、実際にまとめてお聞きするのは難しい。一方で何度も通うのもなかなか難しく、全体的に非常に難しいという印象である。聞き取りに入る前に、何をどういった形で聞きたいのか、展望をしっかり持つて入ることが必要だと思う。難しくはあるが、できる範囲でやっておく必要性は感じているので、何人か聞き取りを行っている。しかし、断片的でまとめる段階には至っていない。

吉田会長：とりあえずは身近なところから、あるいは市の幹部であった方などから始

めるのはどうか。今井委員からもお話を伺うと良いのではないか。

今井委員：聞き取りは、内容の公開についても考えなければならない。お話を伺うことはできても、内容自体は時期が来ないと公表できない、ということもある。

吉田会長：とりあえず、お話を聞いてテープ起こしまでは行い、外へ出すのはしばらく見合わせるという方向も考えられる。飯田でもそうしている事例がある。

今井委員：一生懸命やっても外へ出せないかもしれない。

吉田会長：それでも、何か記録しないと途切れてしまう。

今井委員：書いたもの、あるいはその人の手記というものが無い以上は聞いておくのが一番である。組織的にできるのが一番いいと思う。

吉田会長：他に何かあるか。無ければ議題2に移りたい。

議題2 今後の事業予定について

平成26年度に計画されている史料調査・収集・整理事業、普及事業、市史などの刊行事業及び今後の刊行物について芦田主査が説明。

<質疑応答>

吉田会長：では、議題2について何かご意見・ご質問があればお願いしたい。史料調査・収集・整理事業の事業計画案のところに、いつでもいいが、年度内に1回、調査・収集・整理した史料の成果の発表会開催を入れてはどうか。

事務局（芦田）：千葉市史研究会などでもよければ前向きに考えたい。

緒志委員：君津の方の実家に土蔵があり、古文書がたくさん出たので、以前県立中央博物館へ持ち込んだところ、担当研究員の方が説明を兼ねて講演会を開いてくれた。こうした形で内容などを説明・発表して貰うと、提供した方もよくわかるし、聴講された方も理解が深まり、双方に意義深いものになる。単にデータとして残すことだけでなく、こうしたことも検討していただきたい。わかりやすく、提供者としてはとてもよいことと思った。

吉田会長：県立中央博物館はそうしたことを定期的に行っているのか。このケースは特別に行ったのか。

緒志委員：わからない。

本郷副会長：史料所蔵者だけでなく、一般の方も聞けるのか。

緒志委員：そうだと思う。県民だより等の募集では無かったと思うが、詳しいところはわからない。

白井委員：年間予定に歴史学講座などがある。その中に入っているのではないか。

吉田会長：そうした説明会に、古文書を提供したお宅の方は招待されるという形なのか。

緒志委員：恐らくそうだと思う。詳細についてはわからない。

吉田会長：ぜひ検討していただきたい。中級古文書講座などで翻刻した史料を『いまむかし』に発表するなどはどうか。これまではやっていたのか。それを、講座の成果として史料紹介的に載せるということも考えられる。

緒志委員：千葉県文書館主催の古文書講座に、ここ2、3年ほど出席しているが、県

民だよりで募集するからか、毎回参加者が200人超と非常に多い。千葉市は参加者が少ないようだが、古文書のファンは多いと思うので、なるべく効果的なPRを考えて活性化してはどうか。市政だよりはもちろんだが、郷土博物館の来館者に配布できるパンフレットを用意するなどしてはどうか。

白井委員：活性化と関連するが、中級古文書講座の受講者の中から、古文書整理などのボランティアをしたいと希望する方はいないのか。

事務局（芦田）：かなり前に中級古文書講座を卒業した受講生を対象に、古文書実習を行い、実際の整理作業のノウハウを勉強する機会を設けた。今登録している古文書ボランティアはそのときの卒業生である。作業の面から、なかなか増員が難しい。ただし、熱心な受講生も多いので、その方々がボランティア的な作業ができるように今後考えていきたい。

吉田会長：郷土博物館の方にはボランティアや友の会など市民の方が恒常的に関係を持てるような仕組みはあるのか。

事務局（芦田）：市史関係は古文書と新聞データベースの2つがある。博物館の方では土日に展示の解説をするボランティアがいる。現在30人超の登録がある。

吉田会長：他館の例だが「市民研究員」という制度を作り、数十人の方が博物館と恒常的な関係を持つメンバーとしていて、もちろんアマチュアではあるが、様々な活動・業務の手伝いや部分的には発表などもして、熱心に活動されている例がある。名誉称号的なものではあるが、単なるボランティアとしてではなく、成果を館にどうくみ取って貰うかも含めて「帰属意識」を持って貰うことも大事ではないか。飯田でも市民研究員が年に数人いて、研究活動をされている。そうした意味も含めて上級の設置を検討していただきたい。

本郷副会長：市史研究講座の受講生が、減っているように見えるが。

事務局（芦田）：テーマの関係で3回目は若干少ないが、全体としては減っていない。

吉田会長：やはり古い時代ほど人気があるのか。

事務局（芦田）：中世くらい時代、特に千葉氏のことを聴きたい希望者が多い。

白井委員：それがあから26年度は2日間の両方に千葉氏が入っているのだろう。

本郷副会長：一般的に中世だと戦国時代の人気が高いので、千葉市史研究講座は人気の度合いが違う。

吉田会長：『歴史読本』（仮称）について現況を報告してほしい。

事務局（大関）：『いまむかし』の紙上古文書講座をベースに、他の先生にもお願いして原稿を書いて頂いている。あともう少しで原稿が揃うので、体裁を整えれば、出版できる形になる。

吉田会長：崙書房から出していただけることになっている。当初の予定より1年以上遅れてはいるが、内容的に面白いものができると思う。次回には報告ができると思う。他に何かあるか。無ければ議題3に移る。

議題3 その他

<質疑応答>

吉田会長：議題3はその他とあるが、何かあるか。特に何もなければ、以上をもって、

議事を終了する。

田中副館長の進行により、平成25年度第2回千葉市史編さん会議を終了する。

問い合わせ先 千葉市立郷土博物館市史編さん担当
TEL 043-222-8231